

競技注意事項

今後、新型コロナウイルス感染症の影響で、競技運営および安全確保に支障をきたす不可抗力事態が発生した場合や発生する恐れがある場合は必要に応じて大会中止とする。中止となる場合は、当大会ホームページ等で告知する。

本大会参加者は「2020年度日本陸上競技連盟競技規則及び陸上競技活動再開のガイドランス」(以下：ガイドライン)」に従い行動すること。参加者(競技者、監督・コーチ、チーム関係者すべて)は、体調チェックシートを大会当日提出を義務付けとする。大会主催者は、大会前や当日に発熱や体調不良が確認された場合、該当競技者の出場を認めない場合がある(詳細はガイドラインに記載)。

1 競技規則について

本大会は、2020年度(公財)日本陸上競技連盟競技規則ならびに大会要項及び申し合わせ事項により実施する。

2 練習場および練習について

- (1) 練習は「練習会場に関する注意事項」を確認の上、危険防止に十分注意し、競技役員の指示に従うこと。**※集団では行わず個別で行うなど、「3密」を避けること**
- (2) 投てき種目の練習は、危険をとまなうので、各種目とも競技開始前に競技役員の指示に従うこと。

4 招集について **※招集時の「3密」を避けるため、現地で競技役員の指示に従うこと**

- (1) 招集所は、メイン競技場第2ゲートに設ける。
- (2) 各種目の招集開始時刻と招集完了時刻は、プログラムの競技日程を参照のこと。
- (3) 招集方法については、次の通りである。
 - ①競技者は、招集開始時刻に招集所で待機し、競技役員から点呼、持ち物の確認(競技規則第143条、第144条)商標等の点検を受け、競技役員の誘導により競技場に入る。競技場内に持ち込めない物
 - ②トラック競技に出場する競技者は、腰ナンバー標識を競技者係から受け取る。
 - ③2種目同時に出場する競技者は、あらかじめ本人または代理人が「2種目同時出場届」に記入し第1種目の招集開始時刻までに招集所に提出する。
 - ④リレーに出場するチームは、所定のリレーオーダー用紙に記入し、第1組の招集完了時刻の1時間前までに、招集所に提出する。提出後の変更は負傷等の場合を除き認めない。
 - ⑤代理人による最終点呼は認めない。招集完了時刻に遅れた競技者は出場できない。

5 アスリートビブス(ナンバーカード)について

- (1) アスリートビブスは、配布された大きさのままでユニフォームの胸部・背部につける。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部のみでよい。
- (2) トラック競技に出場する競技者は、腰ナンバー標識1枚(招集所で配布)を腰につける。
- (3) 5000m、10000m、5000m競歩においては、腰ナンバー標識1枚(招集所で配布)を腰につける。

6 競技について

- (1) トラック競技は全て写真判定装置を使用する。
投てき競技(砲丸投げは除く)は光波距離計測装置を使用する。
- (2) トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の番号順で行う。
- (3) 決勝の組み合わせおよびレーン順は、主催者が公正に決定しその結果を招集所記録掲示板及び速報サイトに掲載する。
- (4) トラック競技における次のラウンド進出者のプラスの決定について、その最下位で100分の1秒単位で同記録があった場合、1000分の1秒で着差判定をして進出者を決める。着差がない場合でレーン数に余裕があれば同記録の者は次のラウンドへ進出できる。レーン数の不足する時は抽選する。

(5) 競歩競技について

①残り 100mからフィッシュまでの間で競技者の歩型が第 230 条 2 に明らかに反する時、競歩審判員主任はその競技者にそれまでに出示されたレッドカードの有無に拘わらずその競技者を主任単独で失格にする権限をもつ。

②30 分を過ぎて新たな周回には入れない。

(7) 4×100mRの2～4 走者のマークは各自用意したものを使用すること（テーピング等）。また、競技終了後の回収は各チームで責任をもって行うこと。

(8) フィールド競技の公式練習は原則 2 回とし、全て競技役員の指示に従う。

(9) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、下記のとおりとする。

① 荒天、その他特別な状況が生じた場合、審判長の判断により変更することがある。

② 棒高跳の公式練習は、任意の高さおよびアップライトの位置（現地で担当競技役員に申告する）で試技順に 2 回行う。ゴムバーの高さを正規の高さに設定して行う。

種目	練習	バーの上げ方	
男子走高跳	1m70	1m75～1m95 まで 5cm 刻み	以後 3cm 刻み
女子走高跳	1m40	1m45～1m65 まで 5cm 刻み	以後 3cm 刻み
男子棒高跳	任意の高さ	3m00～3m90 まで 10cm 刻み	以後 5cm 刻み
女子棒高跳	任意の高さ	3m00～3m90 まで 10cm 刻み	以後 5cm 刻み

(10) 跳躍競技で使用するピットは、すべての競技で 2 ピットとする。

7 コーチングエリアの設置について ※「3密」回避の徹底 「ガイドライン」参照

(1) フィールド競技については、コーチングエリアを設置する。

(2) 競技中の競技者に対するアドバイスは、コーチングエリア内で行うこと。

8 競技場への入退場について ※入退場時の「3密」を避けるため、現地で競技役員の指示に従うこと

(1) 競技場への入退場は、全て競技役員の指示により行う。

(2) 競技に出場する競技者は、メイン競技場第 2 ゲートに設置する招集所から競技場内に入場する。

(3) メイン競技場で競技が終了した競技者は、第 1 ゲート（フィニッシュ付近）を通過して退場する。

(4) 表彰対象者およびドーピング検査対象者については、競技役員の指示に従う。

9 欠場届について

(1) 本大会申込完了後に欠場する競技者は、本大会規定の「欠場届」を提出する

【欠場届の提出方法】※全種目対象

① 8 月 31 日までに届ける場合は F A X もしくはメールにて受け付ける

② 9 月 1 日以降はメールにて受け付ける

③ 大会期間中は招集所に手受け付ける

※指定のメールアドレス iwakoshi@mx6.fctv.ne.jp 宛に「欠場届」を添付して提出する。

※メールタイトルを【北実欠場届_チーム名称】とすること。

④提出日時は、大会申し込み後から大会当日の各種目競技開始 2 時間前までとする。

●欠場が確定している場合は、期日にかかわらず速やかに「欠場届」を提出すること。

・次ラウンド進出後の欠場の場合も、速やかに提出

10 競技用靴・用器具について

(1) 競技用靴

- ① スパイクは11本以内で、長さ9mm以下とする。ただし、走高跳とやり投は12mm以下とする。また、スパイクの先端近くで少なくとも長さの半分以上は4mm四方の定規に適合しなければならない。
- ② 靴底はスパイクのある競技用靴は30mm以下、スパイクのない競技用靴は40mm以下とする。シューズの性能など機能や仕様に疑義がある場合にはレース後、審判長が競技者に対し、検査を要求する場合がある。

※シューズ(スパイク、ランニングシューズ含む)のソールの厚さについては、今後変更となる見込みであることから、日本陸連の規定に遵守すること(別途通知する)

(2) 競技に使用する用器具は、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。

ただし、投てき用器具は、各人所有のものを検査の上使用することができる。

投てき用器具の検査受付は、各競技種目の競技開始時刻90分前までに選手受付に預けること。出場する競技者もしくは代理人が「投てき用器具検査申請書」と共に直接持参すること。検査後の用器具は、主催者預りとし、その用器具は全競技者が使用できるものとする。返却は競技終了後、競技場または用器具庫で預かり書と引換に行う。

棒高跳用ポールについては、棒高跳ピットにて担当競技役員が検査を行う。

(3) フィールド競技で助走路に使用するマーカーは、主催者が用意したものを2個まで使用することができる。サークルから行う投てき競技はマーカーを1個使用することができる。

11 抗議・上訴について

- (1) 競技の結果または競技進行中に起きた競技者の行為に関する抗議は、競技結果が電光掲示板で正式発表されてから、競技規則第146条2及び第146条2[国内]に定められた時間内にその競技者または代理人が担当総務員を通して審判長に対して口頭で抗議を行う。
- (2) さらに、審判長の裁定に不服の場合は預託金(1万円)を添え、担当総務員を通して Jury に文書で申し出る。(競技規則第146条7)

12 ドーピングコントロールテストについて

ドーピングコントロールテストはJADAおよびJAAFの規則に従い実施するので、係員より指名された競技者はテストを受検すること。

- (1) 国際陸上競技連盟アンチ・ドーピング規則および規定、もしくは日本アンチ・ドーピング規程に基づいて行われる。尚、本大会の前もしくは後のドーピング検査では、尿又は血液(或いは両方)の採取が行われる。該当者は指示に従って検査を受けること。競技会時、ドーピング検査の対象となった場合、顔写真付きの身分証明書が必要となる。顔写真のついた、社員証、運転免許証、顔写真が鮮明なパスポートコピーなどを持参すること。
- (2) TUE申請

禁止表国際基準で定められる禁止物質・禁止方法を病気の治療目的で使わざるを得ない競技者は“治療使用特例(TUE)”の申請を行わなければならない。詳細については、日本陸上競技連盟医事委員会のホームページ(<http://www.jaaf.or.jp/medical/index.html>)、又は日本アンチ・ドーピング機構ホームページ(<http://www.playtruejapan.org/>)を確認すること。

13 表彰について ※表彰時の「3密」を避けるため、現地で競技役員の指示に従うこと

- (1) 北陸実業団選手権大会各種目の優勝者(チーム)に賞状と副賞、第2位と第3位には賞状をそれぞれ授与する。
- (2) 一般・高校の部の優勝者(チーム)に賞状と副賞、第2位と第3位には賞状をそれぞれ授与する
- (3) 日本記録・北陸実業選手権大会記録を更新した競技者に「新記録賞」を授与する

- (4) 種目別表彰は行わないが、3位までの入賞者は該当競技終了後、地下1階コンコースに賞状を取りに来ること。

14 その他

- (1) 衣類の広告に関する規定については、「競技会における広告および展示物に関する規定」に従い、違反に対しては、主催者において処置する。表彰を受ける際もこれが適用される。
- (2) 更衣室は、**メイン競技場**メインスタンド1階に設ける。
※「3密」回避の徹底 「ガイドライン」参照
- (3) 記録はその都度発表（速報サイト）する。
- (4) **当大会は無観客とするが、スタンドの応援については、スポンサー企業・チーム関係者のみ認める。また、**応援エリアは、コーチ席や撮影禁止区域、報道エリアなどテープで制限した範囲以外の席とする。
※感染予防のため「ガイドライン」が定める応援マナーを遵守すること。
- (5) 応援の際の応援グッズは一切認めない
- (6) 貴重品類は各自で保管すること。万一紛失・盗難にあっても主催者は責任を負わない。
- (7) 遺失物類については大会本部で管理する。
- (8) **スタンドは全面撮影禁止とする。**
- (9) 応急処置を必要とする事故が発生したときは、救護室で処置を受けることができる。
- (10) ゴミ箱については、設置しないため持ち帰りすること。**
- (11) 大会関係者が撮影した、写真・ビデオは主催者の北陸実業団陸上競技連盟に使用権限があり、SNSなど情報発信に使用することがありますのでご了承ください
- (12) 提出書類等については下記の通り行う。（各用紙は提出先で配布する）

	提出書類	提出先	提出時間
1	欠場届	当競技注意事項の「9 欠場届」を参照	
2	2種目同時出場届	招集所	第1種目の招集開始時刻まで
3	リレーオーダー用紙	招集所	第1組招集完了1時間前まで
4	用器具検査申請書	用器具庫	各競技種目の競技開始時刻90分前まで
5	抗議申立て（口頭）	大会本部（経由審判長へ）	正式記録発表後30分以内まで、同一日に次のラウンドがある場合は、15分以内まで
6	上訴申立書（文書）	大会本部	審判長裁定後30分以内まで、同一日に次のラウンドがある場合は、15分以内まで

15 大会主催者の免責事項

- ・大会主催者は競技会に関わる全ての人の感染に対するいかなる責任を負わない

練習会場に関する注意事項

- 1 練習会場および使用時間について※「**3密**」回避の徹底 「ガイドライン」参照
補助競技場（芝生内：利用可）
※1. 男女の棒高跳は主競技場での練習に引き続き正式競技を開始する
※2. 投擲練習場の利用については、競技終了後の種目は不可とする
- 2 補助競技場は自由使用の為、セキュリティ対策は自己管理のもとで行うこと。
- 3 練習は、競技役員の指示のもと、事故防止に十分配慮して行うこと。
- 4 練習に使用する用具は、原則として各自持参すること。（スタブロー、ハードルは準備します）
- 5 スパイクのピンの長さは、9mm以下とする。ただし走高跳・やり投げのスパイクについては、12mm以下とする。
- 6 練習におけるレーンの使用については下記のとおりとする。
■補助競技場：ホームストレート**10**レーン（芝生内：利用可）
 - ・**1～2**レーン：中・長距離・競歩種目
 - ・**3～6**レーン：短距離種目（ホームストレートはスタート練習）
 - ・**9、10**レーン：100mH、110mH（ホームストレート）
 - ・**7、8**レーン：400mH、第1曲走路からバックストレートにハードルを設置する
（ホームストレートは除く）※ジュニアアスリートも使用しますので十分配慮して行うこと。
- 7 投擲練習はターン、助走のみとする。
- 8 室内練習場のウォーミングアップは、反時計廻りの一方通行とする。
※「**3密**」を回避の徹底、「ガイドライン」参照